

シンポジウム『高齢化社会に向けた気象と健康および快適性』概要

1. 「暑熱寒冷順化のメカニズムを動物実験で探る」

野本 茂樹氏（東京都老人総合研究所）

概要：高齢者の熱中症予防にも暑熱順化が有効であるといわれているが、その効果をヒトで検証することは倫理的にも困難である。そこで老齢ラット(24ヵ月齢、ヒトの約60歳に相当)を用いて暑熱順化の効果を検討した。

2. 「高齢者の住宅の温熱環境」

山岸 明浩氏（信州大学）

概要：わが国の高齢者の住宅の温熱環境について、海外での実測事例を交えながら比較・考察を行い、そのあり方について考える。

3. 「ヨーロッパにおける気候保養地の今日的意義」

加賀美 雅弘氏（東京学芸大学 教育学部 地理学研究室）

概要：ヨーロッパでは18世紀の保養地への関心の高まりとともに、大気環境を活用した気候保養地（climatic resort, klimatische Kurort）が発展した。これは、温度や湿度、風や日照など大気の状態を健康管理や病気の治療に活用する場所として医学的に評価し、そこに長期滞在することによって効果を得ようとするものであった。気候保養地のほとんどは山岳地や農村地域に立地したが、それは当時、特に都市に住む人々にとって澄んだ空気が魅力だったばかりでなく、都市から離れた環境において身体にさまざまな刺激や弛緩がもたらされ、治療やリハビリなどに効果をもたらすことが期待されたからである。・・・・・・・・・・・・・・・・

4. 「気候・地形環境からみた温泉・気候療法」

阿岸 祐幸氏（NPO「健康保養ネットワーク」、北海道大学名誉教授）

概要：現代的温泉・気候療法は、温泉入浴のほか、温泉地の気温、気圧、海拔高度などの気候要素、森林、山岳、海岸などの地形を積極的に療法に取り入れる健康保養地療法である。これらの意義と事例を概説する。